

アンゴラで 支援活動開始

AMDA

国際医療援助団体のAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）は二十日、内戦で隣国に逃れていた難民の帰国が本格化している

アンゴラで医療支援活動を始める、と発表した。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）から要請を受け、難民の帰国、定住を支援する。日本のNGOが現地入りするのは初めて。来月上旬に医師ら四人を派遣する。

アンゴラでは一九六一年以来続く内戦で約三十万人が難民となった。今年五月、大統領とUNITA（アンゴラ全面独立民族同盟）の間で和平がまとまり、難民の帰国が始まっている。